



創刊号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2009年1月11日

会員の皆様、

今年私たちは、本会の150回目の誕生日を祝います。ジョヴァンニ・カリエロ（1838 - 1926）は、1854年に、サレジオ会を形成するようとのドン・ボスコの呼びかけを受諾した最初の4人の一人でした。また彼は、1875年11月11日に派遣された、アルゼンチンへの最初の宣教団を率いるようにと選ばれました。そこで、この簡単な、活性化のための月々のお便りを、カリエロ11と名付けたいと思います。

このカリエロ11の目的は、世界中のすべてのサレジオ会共同体に声を届け、少なくとも月に一回、mission ad gentesに遣わされたすべての宣教師を私たちが思い出し、彼らのために祈ることです。彼らのことを思い出しながら、私たちは、自分たちが皆「若者の宣教師」になるように呼ばれていることを思い起こします。一部の管区では、毎月11日に宣教師のためにミサが捧げられ、彼らのために祈っています。この小さなニュースレターは、霊的読書として、あるいは夕の祈りの一部として用いることもできるでしょう。

ページの終わりに、教皇様の一般・宣教の意向と、サレジオ会の宣教の意向が掲載されます。これらの意向は、本会のウェブサイト www.sdb.org にも載っています。

2009年のサレジオ宣教の日（DOMISAL=DOMenica MISSIONARIA SALesiana）は、諸管区が体験や実践を分かち合う機会になります。ニュースレターの各号に、さまざまな管区での宣教活性化の資料を提供します。これらのアイデアやその他の資料のすばらしい情報源として、サレジオ・デジタル・ライブラリー（<http://sdl.sdb.org>）があります。誰でも閲覧できます。

カリエロ11が宣教の炎を絶やさないために、私たちの助けとなることを、熱く願ってやみません！

宣教顧問 ヴァツラフ・クレメント神父 SDB

創刊号の内容

- ・ 宣教顧問より
- ・ サレジオ会の宣教の意向
2009年1月
- ・ ドン・ボスコが宣教にたずさわ
るようになったいきさつ
- ・ 宣教師の声：ガエタノ・ニコシ
ア神父



第139回派遣式で宣教師として派遣されたサレジオ会員たち
ローマ、聖パウロ大聖堂の前で

2009年1月 サレジオ会の宣教の意向

「ヨーロッパ31管区のサレジオ会員のため。彼らがプロジェクト・ヨーロッパ（GC26, 111）に参加する信頼と勇気をもちますように。ヨーロッパにおけるサレジオのカリスマを再発進させるために。個人また共同体としての生き方のうちに、福音の信頼できるあかしをすることによって。」

教皇の一般・宣教の意向：www.sdb.org 参照 本紙メール連絡先：cagliero11@gmail.com

ドン・ボスコが宣教にたずさわるようになったいきさつ



1875年1月29日の夜、最初の宣教団をアメリカ大陸に派遣する決定をドン・ボスコが厳かに発表したことを、歴史家エウジェニオ・チェリアは次のように伝えています。「発表を聞いた者たちは、驚き、感嘆、熱意をもって応じ、しмайに歓喜の拍手にわきたった。この発表が聞き手たちに与えた印象を理解するため、私たちは当時に戻らなければならない。オラトリオは今日のような国際的な場ではなく、サレジオ会も指導者の周りに集まった家族という自覚をもつにすぎなかった。その夜、想像力に与え

られた力は、突如として際限のない地平を開き、ドン・ボスコとドン・ボスコの事業が包含する大いなる理念を瞬時にとらえた。そのとき、オラトリオとサレジオ会にとって新たな歴史が始まった、と真実に言うことができるのである。」(『サレジオ修道会年代史』I、249)

今日の私たちは、一世紀以上にわたる宣教の物語を知り、実に国際的な環境に生きていて、驚きや熱意をあまり感じません。そこで私は自問します。私たちも感嘆すべきではないだろうか、100年前の彼らにもまして。なぜなら今、私たちは、1875年に植えられた小さな種から育った、大きな木を目にすることができるからです。トリノの郊外で少年たちの集団に囲まれた30歳のこの若い司祭が、60歳になったとき、遠くアメリカ大陸で息子たちによって立てられた教会の創立者になったことを、どう説明したらいいのでしょうか？ 1859年、そして1872年に、危険にさらされた若者たちを助けるという目的を明示して創立された二つの宣教会が、たった数十年後に、カトリック教会の最も重要な宣教会になったことを、どのように説明できるのでしょうか？ すべては偶然だったのでしょうか、あるいは何の関連もないように見えるさまざまな要因のうちに内在する、何らかの論理が働いたのでしょうか？ 「新しい歴史の始まり」とチェリア神父は言います。もしかすると、「ドン・ボスコの真の歴史の始まり」と言ってもよかったですのではないのでしょうか。

確かなことは、ドン・ボスコと彼の創立のカリスマを評価するために、私たちは彼の生涯と働きの全体を考える必要があるということです。ドン・ボスコは少し特別な創立者です。私たちは彼を、ヴァルドッコでの若さに満ちた創立期に押しとどめるべきではありません。それは興味深く、サレジオ会の典型を表すものではありませんが、ドン・ボスコは、司牧の熱意と想像力に促されて前進し、新たな現実を創立してゆくことを決してやめることのなかった創立者です。1875年に、彼は最初の宣教師たちを派遣しましたが、同時に成人召命のための“マリアの子”の活動も創立しました。1876年には、サレジオ協力者会を創立し、1877年にはボレッティーノ・サレジアノを立ち上げました……こうして全体を見渡すと、サレジオの宣教事業を立ち上げるということは、何を意味するのでしょうか？ サレジオの豊かなカリスマの一部として、宣教の要素にはどのような意味があるのでしょうか？ ドン・ボスコが73歳ではなく、60歳で、最初の宣教師派遣を組織できる前に亡くなったと仮定すると、サレジオのプロジェクトはどのような影響を受けたのでしょうか？ もちろんサレジオ家族はあり、成長したにちがいないと私たちは言うでしょう……しかし、今私たちが知っているような幅広い、生命力に満ちた家族にはならなかったでしょう。

私たちのカリスマを作りあげる要素の一つ、宣教が、このカリスマの究極的な発展、満ち満ちた姿であることを、示したいと思います。そして、幅広い背景の中にこれを位置づけ、真のサレジアン顔を描き出させてくれる、その基本的な方向性を強調するのは、特にそのためです。

(J. Aubry, *Rinnovare la Nostra Vita Salesiana*, 47-49より)

宣教師の声

«……ドン・ボスコはオラトリオとサレジオ会を創立しました。……第一の動機は若者の救いであり、彼のあらゆる努力と働きは魂を救うためでした。……私たちがドン・ボスコの息子になりたいならば、魂を救うために可能なあらゆる手段を探求すべきです。ここ広東省の韶州 Shiu Chow で宣教する私たちも、周りのすべての人にキリストをもたらしたいと願っています。あらゆる種類の仕事を通して人々と出会うこと、人々や政府に評価される学校をもつことが大切です。1950年の中国で、私たちの学校には子どもがあふれていました。……私たちは、中国語で本格的なカテケージスを行い、ドン・ズッコが書いたカテキズムを使用しました。子どもたちは自分の意志で集まって来ました。……たくさんの求道者がいました……サレジオ会員は各々、求道者のグループをかかえていました。……すべてが開花する季節でした……私は今も、求道者にカテキズムを教えています。……カテキズムを教えていなければ、死んでしまいます！»

(ガエタノ・ニコシア、92、中国の宣教師)